

1 PLAN(目的・概要)

政策名		環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	4年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 再開発調整担当課長
施策名				成果	コスト		
事務事業名		ガーデンふ頭再開発の推進	継続	維持	維持	連絡先	052-654-7971
目的	対象(誰・何を)	ガーデンふ頭				連携課	
	意図(どういう状態にしたいか)	みんなが楽しめるにぎわい空間の形成、ゆったりと過ごせるくつろぎ空間の形成を目指す。				事業期間	平成22年度～
概要		「ガーデンふ頭再開発基本計画」に位置付けられている「にぎわいの創出」と「くつろぎの場の提供」の実現のため、名古屋港水族館の集客力強化や緑地・広場の機能向上などについて、民間事業者への意見聴取を行うとともに、国や港湾関係者との合意形成を図りながら、再開発の基本的な内容を具体化し、再開発の実現に向け取り組む。				根拠法令等	
						実施義務	☐ 有 ☒ 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和5年度に実施した内容・結果	令和4年度にとりまとめた計画立案段階から開発主体の誘致までを行政と民間事業者が協働で行う新たな取組を進め、公募により選定した協働事業者と令和5年8月に業務委託契約を締結し、愛知県、名古屋市と連携しながら検討を行った。						
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	19,624	10,609	109,000	26,890	31,450	
人件費	千円	34,403	34,345	29,250	27,720	28,028	
合計	千円	54,027	44,954	138,250	54,610	59,478	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	達成度	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
ガーデンふ頭再開発の進捗状況(全3工程)	目標	1	1	2	2	3	未達成	以下の項目のうち完了した工程数 ① 基本計画の策定 ② 基本的な内容の具体化 ③ 事業者選定・事業化	
	実績	1	1	1	1	2			
【進行管理型】		事業進捗状況(5年間)		順調・やや遅れ・遅れ					
	目標								
	実績								
	事業進捗状況(5年間)								
5年度までの達成状況に関する説明(要因・課題)		感染症の影響等により、令和2～3年度は事務が停滞したが、令和5年度は民間事業者と協働し、目標に向けて取り組んだ。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？	☐	港のにぎわいの創出に向け、ガーデンふ頭は親しまれる港づくりの拠点として再開発を推進していく必要がある。また、県民・市民からのニーズも高く、再開発を実施していく必要がある。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていくか？	☐							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？	☐	ガーデンふ頭を再開発することによって、さらなる魅力ある港湾空間を形成することができ、にぎわいの創出につながると考えている。感染症の影響等により、令和2～3年度は事務が停滞し、目標を達成することができなかったが、令和5年度においては、新たな取組をとりまとめ、協働事業者と検討を行った。						
	期待どおりの成果が得られているか？	☐							
効率性	最小のコストとなっているか？	☐	最小コストで事務を行っている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	6年度以降の方向性		判断理由	
	成果	コスト		
	継続	維持	維持	目的を達成するための事業の必要性に中期経営計画策定時から変化がないため。
		取組および資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
今後の課題等			6年度以降の取組	
関係者との調整が必要な項目に多大な時間を要するため目標期間を延伸する必要がある。			引き続き民間事業者と協働し、事業化を目指すとともに、開発エリアの確保に向けた港湾業務機能の関係者等との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組む。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名		環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	4年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 金城・中川・南5区 担当課長
施策名							
事務事業名		中川運河にぎわいゾーンの魅力向上	継続	維持	維持	連絡先	052-654-7978
目的	対象(誰・何を)	中川運河の北幹線・北支線・東支線				連携課	環境担当、事業推進課、 管財課
	意図(どういう 状態にしたいか)	ささしまライブ24地区の開発などと連携し、都心地域に集まる人びとが訪れたいくなるような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成を目指す。				事業 期間	平成30年度～
概要		「中川運河再生計画」で位置付けられている「にぎわいゾーン」において、護岸の老朽化対策およびプロムナードの整備を行い、東支線においては、護岸補修および遊休地の有効活用を図るとともに、水質改善に向け覆砂による底層改善に取り組む。				根拠 法令等	
						実施義務	☐ 有 ☒ 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和5年度に実施した内容・結果	老朽化した護岸の改修・補修を実施するとともに、プロムナード整備に着手した。また、東支線では、運河を眺められる視点場の整備、底層改善に向けた覆砂を実施した。						
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	196,361	188,362	378,435	1,024,346	1,043,247	
人件費	千円	17,431	17,431	17,100	17,100	17,290	
合計	千円	213,792	205,793	395,535	1,041,446	1,060,537	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度						2年度	3年度	4年度	5年度	達成度	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
中川運河覆砂進捗状況 (全4工程)	目標	1	2	3	3	4	未達成	東支線における覆砂の実施において ①現況調査 ②設計 ③工事着手 ④整備 までの工程					
	実績	1	2	3	3	3							
【進行管理型】	事業進捗状況(5年間)			順調 やや遅れ 遅れ									
護岸補修延長 (全1,100M)	目標	350	600	850	1,100	—	100%	東支線における既設護岸の補修延長 (※最終年度は、令和4年度とする)					
	実績	500	500	850	1,100	—							
【進行管理型】	事業進捗状況(5年間)			順調 やや遅れ 遅れ									
プロムナード整備延長 (全1,540M)	目標	—	—	300	1,140	1,540	16%	北幹線・北支線におけるプロムナードの整備延長 関係者の意向					
	実績	—	—	0	120	250							
【進行管理型】	事業進捗状況(5年間)			順調 やや遅れ 遅れ									
5年度までの達成状況に関する説明 (要因・課題)			中川運河覆砂は東支線の松重ポンプ所南側水域の一部区間においてダイオキシン対策が必要となったため、整備まで至らず未達成となっているが、その他の区間については順調に進捗し、護岸補修は当初の目標通り完了した。プロムナード整備については、整備前に老朽化した護岸の改良が必要であることから、北幹線・北支線の老朽化護岸の改良には多大な費用と時間を要し、沿岸用地利用者との調整も必要となるため、目標を下回った。										
必要性・有効性・効率性の検証			評価	評価に関する説明									
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？		○	にぎわいの創出を図るため、引き続きにぎわいゾーンの魅力向上に取り組む必要がある。									
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？		○										
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？		○	にぎわい施設の誘導が進む沿岸用地の護岸の老朽化対策や、プロムナードの整備や覆砂を通じて「にぎわいゾーン」の魅力向上が図られる。また、プロムナード整備については、老朽化護岸の改修および関係者との調整に時間を要しているが、引き続き整備を進めていく必要がある。									
	期待どおりの成果が得られているか？		△										
効率性	最小のコストとなっているか？		○	コストが最小になるよう事業を進めている。									

4 ACTION(取組)

施策評価結果	6年度以降の方向性		判断理由	
	成果	コスト		
	継続	維持	維持	目的を達成するための事業の必要性に中期経営計画策定時から変化がないため。
		取組および資源（財・人）の投入は妥当である。現状を維持する。		
今後の課題等			6年度以降の取組	
プロムナード整備については、令和9年度開業予定であったリニア中央新幹線により、ささしまライブ24地区周辺において来訪者の増加等が期待されていたこと、また、令和7年度にささしまライブ24地区の区画整理事業が完了時期を向かえることや、名古屋市による堀止東側市有地の開発整備が令和6年度より予定されていたことから、中川運河にぎわいゾーンにおけるプロムナード整備を早期に実施することが期待されていた。 本組合においては、このような開発状況を見据え、令和元年度にプロムナード整備の基本計画の検討を実施し、令和2年度から整備区間ごとの設計、令和3年度から整備を順次進める予定であったが、当初の想定より老朽化護岸の改修に多大な費用と時間を要することが判明したことから、事業進捗が遅れており、今後、整備計画及び目標値を見直す必要がある。			引き続き、東支線における覆砂および北幹線・北支線のプロムナードの整備を進めていくとともに、次期中長期経営計画策定に向けてプロムナードの整備計画及び目標値の見直しを行う。	